

日本老年看護学会における「認知症医療・ケア」に関わる活動について

日本老年看護学会は1995年11月に設立され、20周年を迎えた。2015年4月末の会員数は約1700名である。このうち約3分の2が看護学教育・研究に携わる者であり、その他は病院・施設等の看護職、看護系の大学院生、看護系以外の職種の者等である。この数年、認知症看護認定看護師や若手研究者の入会が増加している。

会の目的は「老年看護学の進歩発展を図るとともに看護実践の質向上に寄与すること」であるため、認知症看護・ケアに特化はしていない。しかし認知症については高齢者に多い疾患として注目している。また、本学会の目的から、認知症医療・ケアに関わる活動は「認知症をもつ人と家族に対応する看護職の教育・育成」に焦点があてられている。

平成26年7月～平成27年6月の認知症医療・ケアに関わる活動は以下のとおりである。

1) 看護職の生涯学習支援

11月に「日本の認知症ケアの方向性と老年看護学の貢献」というテーマで講演会を開催し、会員59名、非会員22名の参加があった。講演内容は下記のとおりである。

①日本における認知症ケアに関する政策動向と老年看護学会に期待すること

講演者：勝又浜子氏（国立保健医療科学院 統括研究官）

②日本看護協会における認知症ケア充実への取り組みと老年看護学会に期待すること

講演者：坂本すが氏（日本看護協会 会長）

③認知症ケアにおける老年看護学会の取り組みと今後の展望

講演者：北川公子氏（日本老年看護学会 理事）

2) 認知症看護認定看護師の質向上支援

専門看護師・認定看護師活動推進委員会により、本学会が発足に関わった認知症看護認定看護師の質の向上や連携強化を図っている。平成26年11月1日に認知症看護認定看護師研修会を開催した。また、認知症看護認定看護師会設立をサポートした。

例年、学術集会は認知症看護認定看護師の学習、活動報告の場となっている。平成27年6月13-14日に開催された第20回学術集会では、認知症看護認定看護師による4つの自主企画が開催された。内容は以下のとおりである。

「中核症状から引き起こされた生活機能障害のアセスメントが認知症看護の質を上げる
—中核症状のアセスメントに焦点をあてて—」

「認知症の人への視点を尊重したケアの継続—認知症看護認定看護師教育課程の臨床実習
の現場から—」

「認知症看護認定看護師の活動拠点の多様化に向けて」

「出張！ 高齢者ケアの教師塾湘南—看護基礎教育／継続教育で認知症を教える・学ぶ」

3) 政策提言

認知症ケアに関して学術的観点から政策提言を行えるよう、老年看護政策検討委員会によ

リエビデンスをまとめた。①「認知症入院高齢者へのチーム医療」の評価に関するシステマティックレビューを行い学会誌に投稿し掲載された。②認知症看護認定看護師および老人看護専門看護師を対象に、認知症の高齢入院患者へのチーム医療とその効果に関し、2014年2月の1か月間、前向き調査を行った。この結果は報告書にまとめ、ホームページにも掲載した。

これらに基づき「入院認知症（神経認知障害）高齢者へのチーム医療」について、平成28年度診療報酬改定に向けた医療技術提案書を作成し、看護系学会等社会保険連合より厚生労働省に提出した。

4) 学会誌

平成25-26年度に投稿された論文についての表彰論文は、2論文とも認知症高齢者とその家族に関する研究論文であった。

優秀賞：【原著論文】鈴木みずえ他：認知症高齢者における疼痛の有症率と疼痛が認知症の行動心理症状（BPSD）におよぼす影響

奨励賞：【原著論文】菅沼真由美他：認知症高齢者の女性介護者に対する家族介護者間交流プログラムの効果

（文責 日本老年看護学会 庶務担当理事 湯浅美千代）